

## (7) 牧草のは種時期

春は種は、4月下旬～5月中旬を目安に、ほ場に入れるようになってからできるだけ早い時期に実施します。夏は種は、8月末までに実施するようにします。

また、イネ科主体混播組合せでは、マメ科牧草の越冬性を考慮して8月中旬くらいまでの実施が望ましいです。

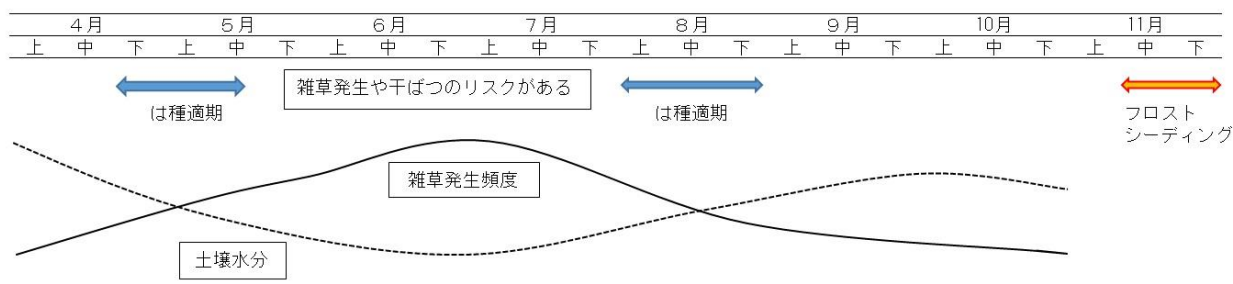


図 V-14 牧草のは種時期について

(雪印種苗(株) 高山氏作成を一部改変、「とち南部の牧草栽培」H19年1月より重引)

### 【夏は種】(1番草収穫後のは種)のメリット、デメリット

- メリット
  - は種翌年の1番草を収穫することができる
  - 雑草発生のリスクは、比較的小さい
- デメリット
  - 作業工程がタイト(過密)になる
  - グリホサート系除草剤の2回処理(雑草茎葉散布/は種前雑草茎葉散布は難しい)
  - 作業行程が遅れると、は種晩限(8月末)までに、は種ができないおそれがある
- 注意点
  - 十分な作業スケジュールを確保するために1番草収穫を早期に実施する
  - は種が遅れないように計画的に作業を行う

### 【春は種】(2番草収穫後のは種)のメリット、デメリット

- メリット
  - 作業工程に余裕があるため、グリホサート系除草剤の2回処理や堆肥散布を行う期間を確保できる
- デメリット
  - は種作業が遅れた場合、雑草の発生リスクが高まる
- 注意点
  - は種後、60日を目途に必ず1番草の収穫(もしくは、掃除刈り)を行う
  - ※掃除刈りの残草が牧草を覆って、再生を阻害するおそれがある場合は、ほ場外に搬出する

※夏は種で、「いつまでに播けば良いのか? (=は種晩限日)」を計算できる『牧草は種晩限日計算プログラム農研機構メッシュ農業気象データ版』プログラムがあります。詳細は、農研機構北海道農業研究センターのホームページより入手できます。

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/120164.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/120164.html)

※フロストシーディング(初冬季は種)については、8ページを参照してください。